

東京バッハ合唱団 月報

[第 664 号] 2017 年 10 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 664

October 2017

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

再演曲をどう選ぶ？——“個人的”な上演可能性

大村 恵美子（主宰者）

いつも定期演奏会が終わるごとに、「今後この曲を歌えるのはいつになるだろうか、もう2度とチャンスはないのだろうか？」と、惜別の念にかられます。私が指揮をすることとなった1979年からしばらくは、カンタータを作曲年代順に辿ることにしたので、初期作品はほぼ全曲、多産なライプツィヒ期になると、なるべく好評を得ているものは落とさないようにと配慮、また合唱のすぐれたものも落としたいくない、ということで、ひとまずバッハの最後年期まで到達しました。

その後は当然、未演のものを優先に、となりましたが、これまですでに歌って感銘を受けたものを再演したい、というケースも山ほどあって、途方に暮れそうになります。私も、引退後のこの合唱団のあり方は別におくとして、私自身がもういちどコンサートの場で味わいたいものを、この際ははっきりさせておこう、と思いつきました。そこで、BWV（作品番号）順に、上演記録のリストをつくりはじめたのです。①定期演奏会、②その他の国内公演、③海外公演、④楽譜出版の有無の4項目に分けて、カンタータ20曲ごとに公表します。あわせて今後の、初演または再演の“個人的な”可能性にも言及しましょう。[次ページに表]

私がいなくてもわかるように、新バッハ全集の楽譜スコアは、(これまではなるべく手つかずの状態を残すつもりだったのを改め)、BWV 1 から全曲をめざして、しっかりとコピーできるよう、インクで邦訳歌詞を書き入れ、また、団で初演したときの強弱その他の書きこみも、あるいは未演のものについては、2017年現在の私自身の意見に従った書きこみを、参考までに明記する。これは、あくまでも参考用で、現に世界中で用いられる新バッハの楽譜そのものにも当然ミスプリや見すごしがあって、あきらかな誤りを直しながら使っているし、また、それがバッハ自身の指示か、新バッハの(最新)最良心的指示によるものかわからないけれど、私自身の感覚で、たとえばpと指示されているところをfに判断しなおすこともある。また新バッハによる出版と公表されるいくつかのベーレンライター以外の出版でも、トリラーの有無など、それぞれにずいぶん異っています。私自身の原則は、まず新バッハの指定を尊重したのち、熟慮の末、私自身の趣味で判断して上演することにしていきます。即興的に、会場の

スペースや何らかの条件で、毎回異なった演奏をすることは、バッハ自身の中でも、またバッハと息子との間でも、日常的にありえたようです。

そこで、カンタータ全曲の楽譜に、私が元気なうちに、この時点での書きこみを明記しておくならば、さいわいにも私以後の誰でもが、これらを目にしたとき、過去の私たちの実演状態を推察することができ、このままで、ほぼ充分だろうとか、へえ、こんなふうだったのか、今の感じ方とまるきり違っていたのだとか、それぞれに考えた末、新しい実演にとりかかることができるでしょう。私は演奏とは古今東西そういうものだと考えていますので、どんなことになっても大丈夫、とにかくこの世に向かって実演をなるべく誠意をもってふやしてくださることだけにでも感謝します。

試みに、BWV 1 から BWV 20 までのリストをここにお示しし、「演奏可能性」というのを、私のホンネとして残させていただきます。これはたとえば、BWV 1, 4, 6, 8 などは何十回くり返してもよいほど、たぶん多くの人々に喜ばれるものなので、むしろ私自身の気持ちで、たとえば1回しかとりあげなかったのに、もう1回だけでも——というのがBWV 3, 9なのです。BWV 1-10など、若い番号のものでは、未演のカンタータはありません。この後、このようなリストアップ作業が、BWV 200の最終回まで続けられるかどうか、神のみぞ知る、ということでしょう。

どなたでも年を重ねるにしたがって、実感するでしょうが、学生時代には、〈休講〉と知らされると、ワーイと浮かれて帰宅したり、遊びに出かけたりしていたものが、この年になって、テレビなどで教えられると、興味津々じっくりと耳傾けるようになります。年をとるということは、負け惜しみでは全くなく、本当にありがたいと、新鮮な幸福感にみち溢れたものなのです。時代そのものも移り変わって、その評価は、当の人間には、絶対できないもの、それがまた楽しいもの、と私は考えます。

月報 10 月号 CONTENTS

野尻湖 2017 報告 [2]

・ここが天国、これぞ平和 (村山英司) … p.3-4

「宗教改革 500 周年記念 講演と音楽の集い」… p.4

バッハ・カンタータ上演記録と今後の“個人的”上演可能性 (1) BWV 1 - BWV 20

BWV	定期演奏会 (# : 回次)	他の国内特別公演 (○数字 : 回次)	海外公演/◇楽譜出版/【上演可能性】
1	#15 (68.10.05 都市センター) #69 (91.05.25 石橋メモリアル) #93 (03.05.10 石橋メモリアル) #116 (18.05.12 武蔵野市民文化)	初公演 (62.11.10 弓町本郷教会) 野尻湖④ (68.08.10 神山教会) 甲府 (68.10.19 山梨英和女学院) 都内 (76.07.10 聖パウロ教会) 野尻湖②③ (91.08.09 神山教会)	◇楽譜出版 (03.03.20 「50 曲選」 No.1) ※) 以下の◇印の記載中、「50 曲選」は 2000 - 04 年、年間 10 曲ずつ一挙に刊行した「バッハ・カンタータ 50 曲選」を、また「全集」は刊行範囲をカンタータ全曲に拡大して、定期演奏会の曲目と連動しつつ、2006 年より継続中の出版譜を、それぞれ表わす。
2	#75 (94.05.07 石橋メモリアル)	野尻湖②⑤ (94.08.05 神山教会)	◇未刊
3	#83 (98.05.24 石橋メモリアル)	野尻湖②⑧ (98.08.07 神山教会)	◇未刊 【上演可能性あり】
4	#25 (72.05.21 杉並公会堂) #47 (80.05.24 石橋メモリアル) #104 (10.06.06 石橋メモリアル)	野尻湖④⑩ (80.08.09 神山教会) 長崎 (80.10.10 レンゾ・トリスチン修道院、10.11 銀屋町教会、10.12 長崎バプテテスト教会) 南林間 (80.11.01 高座教会) 野尻湖⑩⑬ (82.08.07 神山教会) 都内 (84.09.14 信濃町教会) → 都内 (10.05.16 荻窪教会、荻窪音楽祭)	欧州巡演 I (83.08.09 ハル、08.10 マグデブルク、08.11 ライプツィヒ聖トマス教会、08.12 東ベルリン芸術アカデミー、08.13 東ベルリン・シユルター宮殿、08.16 ストラスブルグ改革教会) [日本語] → G.アンナ師来日歓迎演奏会 ◇楽譜出版 (00.05.20 「50 曲選」 No.2)
5	#75 (94.05.07 石橋メモリアル)	野尻湖②⑤ (94.08.05、神山教会)	◇未刊
6	#4 (64.05.23 立教大学礼拝堂) #33 (75.04.26 杉並公会堂) #62 (87.05.23 石橋メモリアル)	仙台 (66.05.01 ヤマハ・ミュージックセンター) 足利 (87.03.21 足利教会) 野尻湖⑩⑭ (87.08.08 神山教会) 都内 (88.10.16 世田谷中央教会) 都内 (90.03.31 経堂緑ヶ丘教会) [独] 都内 (90.04.01 東京山手教会) [独]	欧州巡演 II (88.08.13 東ベルリン・クリストフォルス教会、08.14 マリア教会、08.19 アイゼナハゲオルク教会) [独 (= ドイツ語)] ◇楽譜出版 (00.05.20 「50 曲選」 No.3) → 東独信使代表団来日歓迎 → 同上
7	#67 (90.06.09 石橋メモリアル)	野尻湖②⑥ (90.08.10 神山教会)	◇未刊
8	#12 (67.09.09 文化会館小) #26 (92.10.21 杉並公会堂) #75 (94.05.07 石橋メモリアル)	野尻湖⑧ (72.08.05 神山教会) 野尻湖②⑤ (94.08.05 神山教会) 都内 (08.07.21 世田谷中央教会) 野尻湖⑩⑰ (08.08.02 神山教会) 都内 (09.05.17 荻窪教会、荻窪音楽祭)	欧州巡演 V (09.08.12 シュトゥットガルト・ハール教会聖歌隊と、08.13 同ムターハウス) [独] ◇楽譜出版 (00.05.20 「50 曲選」 No.4)
9	#89 (01.05.12 石橋メモリアル)	野尻湖⑩⑱ (01.08.04 神山教会)	◇未刊 【上演可能性あり】
10	#74 (93.12.11 ゆうぼうと)		◇未刊
11	#7 (65.08.14 日本聖書神学校) #42 (78.05.14 石橋メモリアル)	野尻湖① (65.08.07 神山教会)	◇未刊
12	#12 (67.09.09 文化会館小) #47 (80.05.24 石橋メモリアル) #60 (86.05.10 石橋メモリアル)	野尻湖③ (67.08.04 神山教会) 野尻湖⑩⑱ (86.08.09 神山教会)	◇未刊
13			◇未刊
14	#114 (16.12.03 府中の森)		◇楽譜出版 (16.07.20 「全集」 BK.014)
15	<偽作>		
16	#88 (00.12.15 石橋メモリアル) #113 (16.05.28 府中の森)		◇楽譜出版 (00.05.20 「50 曲選」 No.5)
17	#104 (10.06.06 石橋メモリアル)		◇楽譜出版 (09.11.20 「全集」 BK.017)
18	#47 (80.05.24 石橋メモリアル)		◇未刊
19	#83 (98.05.24 石橋メモリアル)	野尻湖②⑧ (98.08.07 神山教会)	◇楽譜出版 (00.05.20 「50 曲選」 No.6)
20			◇未刊 【上演可能性あり】

<以下、つづく>

第 115 回定期演奏会

《ロ短調ミサ曲》BWV 232 日本語版

- 2017 年 11 月 23 日 (木/祝日)、14 : 00 開演
- 杉並公会堂 (JR 中央線/丸ノ内線「荻窪駅」下車)
- 入場料 (全席自由) : 前売 3500 円、当日 4000 円
- チケットのお求め : 東京バッハ合唱団事務局
Tel: 03-3290-5731 Fax: 03-3290-5732
Email: office@bachchor-tokyo [HP] http://bachchor-tokyo.jp
- ◎出演者など、詳細はパンフレットをご参照ください。

第 116 回定期演奏会

— バッハ教会カンタータ日本語演奏 —
《主 われらに いまさずば》BWV 178
《抗い また怯むは 心の常》BWV 176
《呼びまつる イエスよ》BWV 177
《あしたに輝く 妙なる星よ》BWV 1

- 2018 年 5 月 12 日 (土)、14 : 00 開演
- 武蔵野市民文化会館 (リニューアルオープン)
(JR 三鷹駅から徒歩、吉祥寺駅・武蔵関駅等からバス)
- ◎参加団員募集中。練習開始 : 本年 12 月より。見学歓迎。

「野尻湖2017 報告 [2]」

参加の皆さんのご寄稿 (到着順。前号よりつづく)

ここが天国、これぞ平和

—2017年夏の野尻湖合宿—

村山 英司 (団員)

東京バッハ合唱団の夏合宿は、昨年と同様、長野県野尻湖畔で開かれ、その中心には、2日目夕方、野尻湖公民館でのワークショップ(昨年から2回目)と3日目午後の神山教会特別演奏会(42回目)がありました。どちらの会も明らかに来場者数が増加し、非常に好評であったと感じられ、来年も是非お願いしますという声を何人からも聞きました。さらに、昨年からのリピーターや、公民館と神山教会へ連日にわたり聴きにいられた方が多くいらっしゃいました。それらの詳細などは別に紹介されると思いますので、ここでは私が特に印象深く感じたことを書いてみます。

・山本悠尋氏の合唱指導

バスの山本先生と我々合唱団とのおつき合いはまだ3年足らずですが、世田谷の白井邸(団員夫妻)で定期的に発声指導を受ける中で、急速に深まってゆきました。ていねいな勘所を押さえた指導法は、時にはご自分の身体の動きを触らせて理解させたり、本番時の合唱団の並び方にまで配慮をいただいたり、微に入り細に入るものです。また、目の当たりにプロの音楽家としての矜持を見せられ、その厳しさも示されています。今回の合宿中も準備体操に始まり、「ア・エ・イ・オ・ウ」の口の開け方、「メッサ・ディ・ヴォーチェ」や「メリスマ」等の歌い方に至り、実際に歌えば、聞き慣れたバスパートの音符がひとつの音楽として意図を持って流れる瞬間を何度も耳にしました。特に日本語での発声については、適切なフレー징が大切であると感じました。確かに、頬を引き上げ縦の口の開け方はあいまい母音的な音になりますが、その響きは格段に良くなります。断然響きを取るべきです。

・多士済々な団員ミニコンサート

2日目金曜日の夜遅くに開かれ、声楽ソロ5人、フルートソロ1人、合唱2組、電子チェンバロ演奏2人の方々が日頃の成果を披露されました。今年は例年以上にバッハの曲に取り組む方が多かったと思います。私事ながら、人前で歌うことはやはり特別な経験であり、自分を追い込むことによって結果的に得るものが多くあります。また、多くの方の伴奏を引き受けた室田千晶さん(A)がご自分でもヘンデルのアリアを弾き語られたのが印象的ですが、下手な歌につき合わされて溜まった思いがあったのかもしれない。

・ようやくピタッと決まりました

《ロ短調ミサ曲》15. 合唱「主は甦りたもう」は、前曲14. 「十字架に」が終わって伴奏と共に2拍目裏

から飛び出す冒頭部分が、今まで決まったためしがありませんでした。しかし、神山教会での今回の演奏では見事に決まりました。おそらく大半のメンバーが集中して待ちかまえ、緊張の中で勇気を持って飛び出した結果だと思います。11月の本番も「本番力」に頼ることなく決めたいと思います。演奏そのものは発展途上であったと思いますが、教会の外で帰路のバスを待つ我々に、若い外人さんが気さくに良かったと声をかけてくれ、思わずうれしくなりました。

・充実した夜の謀議

なんと言っても合宿の楽しみは、アルコールを伴った夜の語らい(謀議)です。土曜日の荻窪の練習後でもそそくさと帰られる方が多い団員ですが、合宿ではそうはいきません。最大3夜に及んで語らいの夜があったようです。各人の部屋とは別に大広間があって、そこで遠慮なく過ごせましたし、各種の差し入れも持ち込みもOKでした。当合唱団とその周辺にはなかなかの人脈があり、南相馬へご一緒した「戦う言語学者」田中克彦氏をはじめ、希少な知性とそれ以外のギャップがおもしろい方が多くおられ、酒席の話題には事欠きません。また、プロの方と間近に接する機会であり、通り一遍ではないお話も伺えます。

・そんな目に遭わせてくれる演奏が今……

今回の合宿とは直接はつながりませんが、東京フルトヴェングラー研究会の野口剛夫氏のことをちょっと書きます。この方はたまに目白の練習に顔を出す程度ですが、書いているものを読むと相当の達人とお見受けしました。彼は現在流行の古楽演奏には懐疑的であり、「感情を表すことへの恐怖や自己を追求することへの恐怖」があつて、「楽器とか、演奏の方法やスタイルに関してやたらとこだわるというのは、一見、客観的で誠実な態度に思えるが、実は自分と向き合うことを恐れ、マニアックなことに逃げ込んでいるだけ」、「現在流行の古楽演奏の〈新鮮さ〉など、流行が過ぎればたちまち色あせ、飽きられてしまう」と断じています。フルトヴェングラーの《マタイ受難曲》について、「超時代的なバッハ演奏の金字塔とも言えるもの」、「古いも新しいもなく、素人も専門家もない。あるのは、神



■ ワークショップを終えて帰館後、休む間もなくミニコンサートで絶唱の天使たち。右の時計注目。写真：千葉光雄氏(団員)

と裸の人間とそれをつなぐ音楽だけだ。それは、ひたすら聴く者の魂を震撼させ、涙にくれさせる。ただそれだけだが、そんな目に遭わせてくれる演奏が今、他にどれくらいあるというのだろう、「歴史的に正しいのかはわからない。しかし、そんなことなどはどうでも良くなってしまふくらいの存在がそこにある」と記しています。

私もその演奏を聞いてみました。メンゲルベルグの歴史的な演奏（1939年SP録音）に比べると大分おとなしく、意外とオーソドックスな演奏ですが、決して流麗ではなくやはりデモーニッシュなものです。野口氏の言うとおりのばかりではないような気もしますが、最近の古楽器系のよどみや深みのない小綺麗な演奏に違和感を強く感じていたので、納得できる面が多い議論です。1954年のフルトヴェングラーの演奏の4年後にリヒターがああ《マタイ》を録音していますが、やはり同じひとつの精神に根ざしていると言わざるを得ません。翻って我々のバッハ演奏は？と問い直せば、一言では難しいですが、のめり込み方が足りないのではないかという感じがします。ただし、大村バッハの目指す方向性と野口氏のおっしゃるものとはかなり親和性が高いのでは、と考えています（引用の出典「KAWADE 夢ムック文藝別冊フルトヴェングラー」河出書房新社、2015）。

野尻湖合宿の感想文が思わぬ方向へ脱線してしまいましたが、我々合唱団員の繋がりの中核にはバッハの音楽に対する理解と愛情があって、それを介して縦横に展開する広がりがあると思います。その意味でも、なかなかおもしろい合唱団であるとあらためて感じた次第です。バッハの音楽にどっぷりつかり、浮き世の雑事から離れた数日間はまさに「ここが天国、これぞ平和」といえました。最後に、このような活発な合宿を企画かつ実行された主宰者や事務方の面々、および合宿の担当パートを務めたソプラノの方々、ご指導を賜った山本悠尋氏と伴奏の鈴木真帆氏に感謝いたします。



■ 8/5 神山教会（対岸の左奥）に出かける前の記念写真。「野尻湖写真アルバム」は、前号より続きました（撮影・千葉光雄氏）。



■ 野尻湖 2017 の立役者：左から、山本悠尋さん（ワークショップ指導とバリトン独唱）、二瓶舞子さん（ソプラノ独唱）、鈴木真帆さん（連日のピアノ独奏と伴奏）、鈴木光雄さん（真帆さんのご夫君で良き支え手、バス新入団員）。神山教会コンサートの終了後、迎いのバスを待ちながら。写真提供：山本弘史氏（後援会員、今回合宿にご夫妻で参加）

「……」
空襲警報が解除されて家に戻ると
天上の煤がごはんのうえに振り落ちていた
ゴマではなく煤の振りかけごほん
珍しくその日は米のごはんだったのに
食べるのをあきらめたごほんが恨めしかった
爆弾で死んだ人をおもいやるよりも
「……」
七〇年が過ぎたいまも
地球上には戦争があつて
いのちにかかわる飢えに脅かされている
多くの子どもたちがいる

若松丈太郎さんが最新刊の詩集『十歳の夏まで戦争
だった』をお贈りくださいました。二〇一七年八月
一五月初版発行・コールサク社（03-5944-3256）

日本エキュメニカル協会主催

宗教改革 500 周年記念 講演と音楽の集い

- 日時：2017年11月3日（金・休日）
午後2時～5時（開場：1時半）
- 会場：日本キリスト教団 聖ヶ丘教会
（東京都渋谷区南平台9-14）
- アクセス
・徒歩：「渋谷駅」南改札口・西口より約10分
・バス：同口からミニバス「代官山循環」（35番乗り場）
で、「南平台町」（最初の停留所）下車、直進右側
- 入場無料（自由献金あり）

< 講演 >

- ・山岡 三治（上智大学教授）
- ・江藤 直純（ルーテル学院大学学長）
- ・大宮 溥（日本聖書協会理事長）

< 音楽 >

- ・パイプオルガン：松居 直美
J.S. バッハ《クラヴィーア練習曲集第3部》より
- ・合唱：東京バッハ合唱団
J.S. バッハ《口短調ミサ曲》より
（大村恵美子/指揮、鈴木真帆/ピアノ伴奏）